

世界に誇る木造建築の伝統、私たちが受け継ぐ！

カレッジ通信

発行
東京建築
カレッジ

百聞は一見に
如かず！

授業の見学
お気軽に！

第19期生（2年生）充実の奈良宿泊研修 随行リポート



文化財保存事務所から説明を受ける（法隆寺）

なぜ、奈良に行くのか。ここが大事なところなんです。奈良県出身の建築CAD（コンピュータ）による設計）講師の吉井真奈美先生はこう説明します。「木造建築は東アジアで発展を遂げたが、中国や朝鮮には千年以上の経年を持つ木造建造物は少ない。これに対し、日本は多数の木造建築が現存している。奈良はその宝庫。政治の中心から離れたため、戦乱を免れてきたことが大きい。空襲の被害も少なかった」。建築構法のシャネルを超えて、古建築研究にとって奇跡のような地が、奈良なのです。それでは、東京建築カレッジの研修の

東京建築カレッジの教育実践の中で、もっともスケジュールが過酷と言われる「奈良宿泊研修」が11月12日～14日行われました。2年次の秋に開催するので修学旅行のようですが、「旅行」というより「特訓」。夜行バスで現地に入り、二泊三日の行程いっぱい、世界に誇る奈良の木造古建築を集中して見学します。建築のプロの学校ということで、国宝・重要文化財の保存改修工事の現場に入れるのも魅力。大学の建築学科でもこのような研修は類例がありません。

目的は何でしょうか。
① 寺社建築づくりのほか、古代都市づくりを実地踏査し、「奈良の建築」の歴史的・今日的ありよう、その心を「五感」で感じてくる。② 伝統建築を支えている建築技術・技能の詳細を保存改修工事の現場や事業所などを通じ確かめる。③ 地球環境と建築の調和、木造・木材の可能性、伝統建築文化の保存・継承・発展のあり方を考える。④ 各地でお世話をうける方々、研修生相互の交流を通じ、

お互いの理解を深めるとともに、それぞれの今後の学習と生活への意欲、建築カレッジ修了（卒業）への意識を高める。この4つが今回掲げた目的。中でも今、大切なのは③でしょう。日本の自然環境を生かし修理しながら長く使い続ける木造建築の長所が、持続可能な地球環境を実現する観点から再評価されているからです。社会的意義の自覚は自分の仕事への誇りを培います。

「次ページへ」

「建築ジャーナル」新人記者がカレッジ生 体験！

専門誌「建築ジャーナル」の新人記者、山崎太資さんが10月30日（金）、池袋校舎にやってきました。朝礼から終礼までカレッジを一日体験。新連載「多様な建築の現場を訪ねて」の第1回で建築カレッジを取り上げます。。

写真は、松田紘講師の「構造力学実験」で試体づくりに挑戦中の山崎さん。カレッジ生にも積極的に声をかけ、熱心に取材をしていました。体験記は同誌1月号に掲載の予定です。



説明会 1月20日（水）
授業見学歓迎！
応募締切 1月28日（木）
入学選考
2月3日（水）
入学願書の請求、お問い合わせは、お気軽に！
電話 03・5950・1771
西岡、吉川

建築カレッジで
学ぶ2年間は、
人生を変える！
第21期生（4月入学）
第4回募集！

ドキュメント

奈良宿泊研修のすべて

11月12日（木）

前日の22時過ぎから続々と第19期生（2年生）が池袋校舎にやってくる。中には、仕事の後、クラスメイトと待ち合わせをしてやって来た子も。やたらハイテンションのM君など。意外に結集が良

という印象。

23時45分。川越街道のバスに、研修生15人（2人欠席）、小林校長、吉井真奈美講師、関昌彦講師、西岡貴之教務部長、吉川の合計20人が揃い、奈良に向けて出発。「3日間の強行軍。うかうかすると何を見たのか、分かんなくなる。きちんとメモを」と小林校

長。24時に消灯・就寝したが、まもなくO君が「トイレに行きたい」と騒ぎ出す。予定になかった海老名SAに立ち寄る。その後は足柄、浜名湖、亀山で休憩、名阪国道を経て、6時48分に奈良公園に到着。「寒い、寒い」という声上がる。



手作り模型の精巧さにも刺激受ける（転害門）

弁当をいただく。

12時、唐招提寺。金堂、講堂を見学。東大寺と法隆寺に挟まれ、滞在時間も短かったこともあり印象が薄い。メモの取り方が甘かった。反省。

11月13日（金）

寝不足で明らかに体調の悪そうな人が数名いるが、江戸時代の街並みが楽しめる今井町へ。称念寺を中心が発達した自治都市だ。ここでは奈良県建築協同組合の役員さんが手掛ける大規模な改修を見学させていただく。「どの柱を残すのか、保存事務所の職員と相談しながら工事を進めるので、気を使うことが多い」と現場責任者。

「元の資料が無いからといって推測で適当な外観にする」とも許されない。今井町では称念寺本堂の解体修復工事が行われていて、文化財保存事務所称念寺出張所の金子隆之主任がとても親切な対応でレッジ生を迎えてくれた。現場全体を巨大な仮設囲いで覆う規模にビックリ。女性の建築職人が複数（大工1人、調査員1人）働いていた。

日頃の住宅建築の仕事で応用できそうな事物が多い今井町は「もっとゆっくり見たい」という声もあったが、次の行程が迫り、バスに乗りあ



世界最大級の木造建築の迫力を味わう（東大寺大仏殿）

7時05分、古都屋さんで豪華な朝食。しかし、食事の時間は30分しかない。なら・観光ボランティアガイドの会の木原明彦さん、有賀健さんに付いて2グループに分かれ、広大な東大寺を巡る。三月堂、二月堂、鐘楼、今話題の七重塔（古代の超高層建築。復元計画がある）跡地、転害門（てがいもん）。鹿に気を取られる研修生若干名。ゼネコンで設計の仕事をしていたという木原さんの転害門の模型の

精巧さに一同びっくり。校倉造りが特徴の正倉院は外から観察のみ。

そして、世界最大の木造建築、大仏殿へ。「木造でもこんなに巨大な建造物ができるんだ」。「貫」と「肘木」というキーワードを受け止めつつ、数名のカレッジ生は柱の穴くぐり。南大門では観光客の雑踏の中、運慶、快慶による金剛力士像の迫力を味わう。南大門駐車場でバスに乗り。昼食は移動のバスの中で慌しくお

13時10分、法隆寺。奈良県文化財保存事務所の幹田秀雄主任に案内をしていただきながら五重塔、金堂、大講堂、夢殿へ。同出張所の職員が2人張り付き、主任以外に「我々の見学態度はどう思われているだろう」と緊張しながら引率。法隆寺見学は16時10分まで。バス出発前に、駐車場の施設にある西岡常一棟梁道具館の展示品の少なさに驚く。そして、一気に南下。桜井市の定宿

へ。みんな寝不足で疲れ方が半端ない様子だったが、深夜に抜け出しコンビニを求めて30分も真っ暗な田舎道を歩いていったレッジ生もいた。



町屋建築の造作に注目（今井町）

薬師寺で 池田建設 石川博光所
長の話を聞く（11月14日）



カレッジ生の日報から

建築カレッジですから、

ジでは研修生に日報の提出を義務付けており、すべての授業科目ごとに学んだことの記述を求めています。奈良研修も「旅行」ではなく「授業」「職業訓練」

▼「（東大寺）すごく広い。奈良鎌倉時代に掛けて、建築改修増築、建て直しがされており、部分的にその時代にかけて建築、改修、増築、建て直しがされてお

り、部分的にその時代の工法、考え方、流行り・すたり、が垣間見えて、とても面白かった」

▼「（今井町）道が狭くて良い雰囲気、街並みでした。会社の社長がこの町の建物、とくに、今西家が好きだと、前に言っていたので、実際に見ることで、とても良かった」

▼「（今井町）既存で使っている木を活かし、新しい形をつくる作業が見れてとても勉強になった。街並みを守るため、いろいろと大工さん的には大変だということがわかった」

▼「（称念寺）女大工さん発見！」

▼「（長谷寺）最後に見た事務所が一番良かった。人が使っているのにきれいで好きだった。とくに、

▼「（今井町）既存で使っている木を活かし、新しい形をつくる作業が見れてとても勉強になった。街並みを守るため、いろいろと大工さん的には大変だということがわかった」

▼「（瀧川会長の講義）見たことのない道具や外国での出来事など、とても新鮮に話を聞くことができた。杜寺の図面は本当に鉛筆できれいに描かれており、とても驚いた」

▼「（薬師寺）西塔を隅から見た直線は本当に感銘を受けた。今度は東塔を見に行きたくなりまして、池袋に帰着

学なので今井町のボランティアガイドさんに申し訳ない気持ちになりつつも、11時25分に、**當麻寺**に到着した。「東京マイスター（東京都優秀技能者）」表彰式出席のため奈良研修に遅れて参加の片岡茂樹2年生指導員責任者と合流。日本最古のお寺についての吉井先生の解説を聞きながら**金堂**、**本堂**、**塔**を巡る。**西南院庭**

園では水琴窟の音に耳をすませた。

午後は移動時間に50分かけ、**長谷寺**へ（昼食はバス内でお弁当＝柿の葉寿司）。鎌倉が有名だが本院はこちら。本堂には京都・清水寺のような**外舞台**があり、奈良研修で毎年、お世話になっている**瀧川寺社建築**による修復工事中なのだ。長い登廊へとへとになるが、大舞台からの眺望は圧巻。文化財の未来への継承を他に真似できない技術力で成し遂げるのだという自信に満ちた瀧川伸杜長の語りにも刺激を受けた。

そして、この日の最後は、宮大工の世界で有名な**瀧川**



昭雄会長の特別講義
100分。左の写真

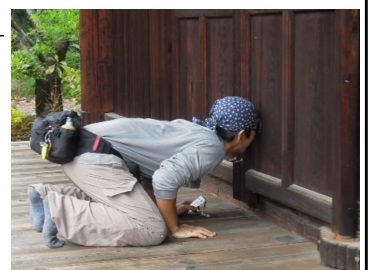
は、瀧川会長の手書きの精緻な図面に驚き、身を乗り出すカレッジ生たち。

2日目の夜は大反省会。ラストは片岡先生から「夢は、何だ？」と問われ、思い通りに本音トーク。建築の専門家として誇り

の持てる仕事をしよう、そのためにもっと学ぼう、と誓い合った。

11月14日（土）

最終日の午前、**元興寺**は、モダン・スムデザイン感のある古寺だった。建築学科の授業のように材の種類や構法を細かく解説する、**極楽院**での住職の話は値打ちあり。その後、



細部が気になる（元興寺）

僧坊、五重小塔を見学。右写真のF君のように、ディテール（細部）が気になってしまふのはカレッジ生ならではの。

元興寺滞在が予定よりも長くなり、復元建築・平城宮巡りはまたしても駆け足に。その影響で、最後の見学先、薬師寺への移動中の昼食時間は10分少々。

薬師寺では、西岡棟梁の傍で長年、仕事してきた**石川博光・池田建設奈良営業所**長から、公開中の**仏舎利**を含め、詳細ガイドを受けた。

東京に向けて出発と同時に大雨。バス車中では当然、映像学習。21時55分、無事、池袋に帰着。

東日本大震災被災地 仮設住宅へ、ベンチ・テーブルを寄贈



橋本英夫統括指導員が陣頭指揮、1年生が製作

東京建築カレッジは、全建総連東京都連からの依頼を受け、福島県いわき市仮設住宅に提供するベンチ・テーブルの製作に協力しました。橋本英夫先生が指導にあたり、第20期生（1年生）が授業の一環で製作しました。

3組のベンチ・テーブルの製作には予想以上に時間がかかりましたが、11月15日の寄贈ツアーには1年生の内田聡弥君、小林陸仁君、竹内佑典君、中山健太君と、小林謙二校長、西岡教務部長の6人が参加。いわき市平下高久下原の仮設住宅自治会の皆さんから歓待を受けました。「何かしたいと思っていた。行ってみて復興には程遠い現実があることを知った」と内田君。

「ギター・マガジン」 コンテストで、 デザイン賞！ 第20期生の高野展昌さん



建築カレッジ1年生、高野展昌さん（＝写真）の自作エフェクターが「ギター・マガジン」のコンテストでデザイン賞を受賞しました。同誌最新号で紹介されています。無垢（むく）のヒノキという素材の斬新さが高く評価されました。



高野さんは「海外のミュージシャンが注目しようということで、商品化を勧められています。強度や汚れやすさの問題をクリアして、可能性を追求します。無垢の木と手刻みの魅力の発信していきたい」と意気込みます。



12月5、6日に幕張メッセで開催される「第53回 技能五輪全国大会」建築大工部門に、建築カレッジ卒業生（第18期生）の浅見拳太さんが出場します。カレッジでは、

浅見さんは勤め先の工務店から特別に休みをもらい、カレッジ池袋校舎の地下実習場で毎日、競技課題の練習に励んでいます。まもなく本番。幕張に応援に行きましよう！

技能五輪全国大会は、厚生労働省、中央職業能力開発協会が主催する最高峰の

競技大会です。参加資格は、満年齢23歳以下の日本国籍を有する者。

08年に氏平達也さん（第11期生）、14年に水越優太さん（第17期生）が銀賞を受賞しました。

技能五輪全国大会出場

頑張れ！浅見拳太さん

卒論研究で都留文科大生がカレッジ訪問

最近、毎週のようにお客さんがやってきます。11月20日には、「職業教育の実践例」を卒業論文のテーマに選んだ、都留文科大学（山梨県）4年生、柳町和俊さん（写真）が来校、午前中から終礼まで、カレッジ生と一緒に授業を受けました。渡辺顕治元教務部長の友人、後藤道夫教授から「建築カレッジを調べてみたら」と言われ、カレッジ紹介本『池袋北口職人大学』（彰国

社）も事前に読んでいました。来年4月から小学校の先生になるそうです。



授業見学・今月の見どころ
要事前連絡！気軽にご連絡を。

- ★1年生「実習棟実習」12月5日（土）・11日（金）の午後。江東実習場
- ★2年生「構造力学演習」12月4日（金）・19日（土）午後。池袋校舎
- ★2年生「卒制プレ発表会」12月26日（土）午後3時。池袋校舎